

*中風の人を支えた信仰

18、19節には、中風という病のために恐らく寝たきりの人を、男たちが床に乗せて運んできて、イエス様のおられる屋内に入れないので、屋上から釣り降ろした場面が記されている。20節「イエスは彼らの信仰を見て、「友よ、あなたの罪は赦された」と言われた。」主イエス様は、彼らの行為を「信仰」があると評価している。

私たちが、ここから学ぶことは、困っている人を遠巻きにして放っておくのではなくて、ましてや友であるならば、友のために犠牲を払って、屋根だっていくらでも弁償する、という覚悟で、イエス様の御前に連れて行くという熱意、行動力だ。ここで言う「信仰」とは、「主イエス様の下に行くこと」。主の下に困っている友を連れていくこと、主イエス様に頼って、難しい問題を持ち込むこと、それが信仰なのだ。私たちにあって、「主イエス様を紹介したい」、「主の下に連れて来たい」と願っている人は誰だろうか？ 主の下に持ち込むほかないという難しい問題は何だろうか？

*神の栄光のための癒し

次に、主イエス様の病に対する見方を確認しておこう。昔も今も、病の原因に罪が関係しているのではないかという考えがある。ヨハネの福音書9章1-5節でイエス様は、「神のわざが現れるための病である」ことを語った。ルカの福音書5章で、主イエス様は、罪を赦す権威を明らかにするために中風の人をいやされた。神のわざが現れるために中風という病が用いられたのである。

*罪を赦す権威が明かになることこそ神のわざ

最後は、罪を赦す権威を明らかにするイエス様に注目する。

私は、信仰を持ち始めた頃に読んでいた三浦綾子さんの小説『氷点』の一章を思い出す。著者が、主人公の「陽子」を通して言わせた「罪をはっきりと赦すという権威あるものが欲しいのです。」である。これは私自身の叫びになった。5章24節の前半に「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」と、主イエス様ご自身の語ったことばが記録されている。イエス様は、ここで、旧約時代から預言されている救い主を指して、「人の子」とは自分自身であること、そして、ご自身が罪を赦す権威を持って地上に来たことを証言しておられる。しかも、その事をあなたがたが知るために、と言って、主イエス様は中風の人をお癒しになられた。

今日の暗唱聖句になっている「友よ、あなたの罪は赦された」(5:20)と宣言を受けた中風の人、どれほど喜び、感謝したことであろう。また、ルカは、まわりにいる人々の反応を26節のように、記録している。「人々はみな非常に驚き、神をあがめた。また、恐れに満たされて言った。「私たちは今日、驚くべきことを見た。」」まわりで見ていた人々は、他人事ではないことに気付いただろう。そして、今日この御ことばを信じて受け入れる私たちにとっても、他人の事ではなくて、自分自身に及んだ主の素晴らしい恵みなのだ。